

学習指導要領		都立府中高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史への扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p> <p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジ</p>	<p>世界史への扉</p> <p>自然環境、世界と日本との関わり、日常生活に関わりの深いものなどを通して歴史を考えることで、歴史に対する興味・関心を高め、学習の意義に気づかせる。</p> <p>①過去の自然環境の変動に対して、人類がどのように対処してきたかを知り、我々の課題にどう立ち向かうのかについて考えさせる。</p> <p>②大黒屋光太夫をはじめとする過去の漂流民たちの経験を通して、人間が本来持っている知的好奇心とコミュニケーション能力について考えさせる。</p> <p>③砂糖の歴史を学ぶことで、現在われわれが使っているものの歴史を考えるきっかけにする。</p> <p>序章 戦史の世界</p> <p>人類がどのように誕生し、どのように進化し、国家を誕生させたかについて理解させる。また、人種や語族の分化についても学習する。</p> <p>第I部</p> <p>1 オリエントと地中海世界</p> <p>2 ギリシア世界</p> <p>3 内陸アジア世界・東アジア世界の形成</p> <p>オリエントやエーゲ海、ギリシア、アジア各所において発生した各々の文化の成り立ちや特徴を理解するとともに、相互の関連についても把握させる。</p>	

学習指導要領	都立府中高校 学カスタンダード
<p>ア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触</p>	<p>第I部まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域世界と文明の成立 既習した地域の文明は、それぞれが決して孤立していたわけではなく交易によって影響を与えていたことに気付かせる。 ・古代国家の成立と発展 国家は、都市国家から領域国家、古代帝国へと発展していったこと。独自の発展を遂げたそれらの国家にはそれぞれどんな特徴があったかを理解させる。 ・国家の発展と密接に関係していた宗教について復習させる。 <p>第I部 主題学習</p> <p>ローマのできごとを整理し、年表をつくることで発展過程の因果関係を考えさせる。</p> <p>第II部</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 イスラーム世界の形成と発展 5 ヨーロッパ世界の形成と発展 6 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 <p>4章では、日本でも増加しているイスラーム教の成り立ちや国家の発展について、第5章では中世までのヨーロッパ世界の成り立ちや発展、第6章では、トルコ化・イスラーム化していく内陸アジアや中国漢民族と異民族との興亡の歴史を理解させる。また、それぞれの地域の関連についても学ばせるように留意する。</p>

学習指導要領	都立府中高校 学カスタンダード
<p>れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界</p> <p>同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p> <p>アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本</p> <p>西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界</p> <p>ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>Ⅱ部まとめ</p> <p>ヨーロッパ・地中海・イスラーム・インド洋・東アジア世界がどのように交流し、モンゴルによっても統一されたユーラシア世界が、6世紀以降どのようなネットワークを持っていたかなど軸に復習させる。</p> <p>第Ⅱ部 主題学習</p> <p>諸地域世界が形成される要因は、地理的条件、宗教、民族・文化の特徴、経済などによってそれぞれ異なっていたことを理解させ、近代以前の交流圏がどのように発展したのか、その背景には商業などの交易活動だけではなく、戦争も視野に入れながら考えさせていく。</p> <p>第Ⅲ部</p> <p>7 アジア諸地域の繁栄</p> <p>8 近世ヨーロッパ世界の形成</p> <p>9 近世ヨーロッパ世界の展開</p> <p>10 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立</p> <p>11 欧米における近代国民国家の発展</p> <p>12 アジア諸地域の動揺</p> <p>東アジアの明・清帝国の誕生とその発展、南～西アジアにおけるムガル・サファールヴィー・オスマン帝国の並立、大航海時代を端緒とした近世ヨーロッパ世界の形成と発展、絶対主義から革命を契機に発展した近代市民社会の形成、ヨーロッパ諸国によるアジア諸地域への植民活動、その背景になった産業革命などの技術革新やそれに伴う社会の変化など、現代につながる歴史の展開を理解させる。また、世界と日本がどのようにかかわっていたかも学習させる。</p>

学習指導要領	都立府中高校 学カスタンダード
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の</p>	<p>第Ⅲ部 まとめ 大航海時代を契機として「世界の一体化」が進展したが、18世紀以降、それまで経済的にも軍事的にもヨーロッパを上回っていたアジア諸国が、ヨーロッパ、とくにイギリスによって支配されていく過程を理解させる。と同時に、アジア諸国も近代ヨーロッパの国家をモデルとして積極的に改革を進めたことも学ばせる。また、世界の一体化の過程において、異文化に対して社会が示してきた反応を学ぶことで異文化理解の課題に気づかせる。</p> <p>第Ⅲ部 主題学習 マカートニーの日記を読むことで、異文化と接した外国人の中国観とその時代背景についてまとめさせる。</p> <p>第Ⅳ部 13 帝国主義とアジアの民族運動 14 二つの世界大戦 15 冷戦と第三世界の独立 16 現在の世界 近世・近代の世界の一体化の過程でも、それぞれの地域が持つ生活環境は維持されていたが、帝国主義時代以降、世界基準の時間の設定や地球規模での情報の共有など地球世界の成立がなされてきた。しかしながら、その過程でさまざまなひずみが起こり、結果として大きな大戦や地域紛争が繰り返されている。現代の歴史を学ぶことで、社会を理解しながら、人類の課題を考えていく契機とする。</p>

学習指導要領		都立府中高校 学カスタンダード
<p>(4) 諸地域世界の結合と変容</p>	<p>課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970 年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p>	<p>第IV部 まとめ 第IV部で扱う現代は、現代に続く戦争や武力抗争の時代でもある。第IV部の復習を通して現代の課題を模索させる。</p> <p>第IV部 主題学習 サハラ以南のアフリカの飢餓人口を示したグラフと穀物の需給の推移を示したグラフ読み取りながら、地図や写真を参考にしつつ、現代の人口と食料問題を考える。</p>
<p>地球世界の到来</p>	<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	

